



Learning World 指導十訓



※ 1 ビジョンを持ちましょう！

子供の言語教育は長期戦。なぜ子供に英語を教えるのかを忘れずに！

※ 2 コミュニケーション活動はあたりまえ！

「知らないから知りたい」「知っているから教えたい」「困っているから助けてほしい」「助けられるから助けてい」カラー教具、アクティビティシート、絵カード、CDなどをフルに使って活動しましょう。

※ 3 自己表現活動をおろそかにしない。

「英語という道具を“持つ”」だけでは意味がありません。「英語という道具を“使う”」ことで、はじめて言語として機能します。

※ 4 生徒の成功感がレッスンの評価です。

「自分の思いが英語で言えた」が基本。「発話させる」ために、「しむける」「その気にさせる」「場面づくり」ができていたかを振り返りましょう。

※ 5 指導書がすべてではない！

教材はあくまでも材料。生かすも殺すも先生次第。状況に応じて生徒に合わせて調整するのが教師の仕事です。

※ 6 復習を大切に！

覚えたと思ってでも忘れるのは当然。「教えたのに」「やったのに」の思い込みは捨てましょう。

※ 7 生徒に英語を使わせることが大切！

先生だけが英語を使っても意味はありません。間違いに臆することなく生徒達が英語を使う環境を作りましょう。教室内で英語が使えなかったら、外で使えるわけがないのです。

※ 8 生徒は一人ひとり違って当然！

生徒には一人ひとり個性があります。評価は周りと比べるのではなく、先週の自分と比べるようにしましょう。

※ 9 弱みをみせるのを恐れない！

「何でも知ってる偉い先生」をやめましょう。先生が I don't know. を言えなければ、生徒も I don't know. が答えになることを知らずに終わります。

※ 10 I'm right. You're right. の精神を忘れないこと。

想定外の答えも受け入れてください。生徒は肯定されることで自尊心が育ちます。「自分がされて嫌なことは生徒にもしない」が鉄則。相手を知ろうとする努力を怠らないようにしましょう。